

**平成 26 年度 第 1 回 ISO/TC46/SC11 国内委員会
議事録**

- 1 日時 :平成 26 年 07 月 28 日(月曜日) 10:00-12:00
- 2 場所 :文京シビックセンター4 階 会議室 A (東京都文京区春日 1-16-21)
- 3 出席者 :委員
- | | |
|--------|------------------------------------|
| 保坂 裕興 | 学習院大学(SC11 リーダ) |
| 小島 博之 | 特定非営利活動法人行政文書管理改善機構 |
| 西川 康男 | ARMA International 東京支部 |
| 楢林 幸一 | 公益社団法人 日本文書情報マネジメント協会 |
| 中島 康比古 | 独立行政法人国立公文書館 |
| 長谷川 英重 | OMG アンバセダ(TC171 リエゾン) 議題 3) 4) (記) |
| 寺下 陽介 | 株式会社 東芝 議題 1) 2) (記) |
- :事務局
- | | |
|-------|----------------|
| 光富 健一 | 一般社団法人情報科学技術協会 |
|-------|----------------|

(敬称略・順不同)

- 4 配布資料 平成 26 年度第 1 回 ISO/TC46/SC11 国内委員会

5 議事

事務局から配布された「平成 26 年度第 1 回 ISO/TC46/SC11 国内委員会」の確認を行い、保坂リーダにより議事を進行する。

- 議題内容
- 1) 平成 26 年度実施計画書
 - 2) 平成 26 年 ISO/TC 投票報告と審議案件について
 - 3) ISO/TC46 ワシントン総合報告
 - 4) その他

5-0)議事録の確認

配布資料に添付された平成 26 年 1 月 24 日(金曜日)に開催された第 2 回国内委員会の議事内容を確認し、承認された。議事録に記載されている MSR シリーズについて、SC メンバで作成した日本語版の今後対応は、「議題 4) その他」にて議論することとした。

5-1) 平成 26 年度実施計画書

配布資料をもとに、事務局より「平成 26 年ニーズ(安全・安心)・国際幹事等輩出分野に係る国際標

準化活動(テーマ名:ドキュメンテーションに関する国際標準化)」について説明をいただく。ここで、全体の事業目的、本年度の事業目的、事業内容及び実施方法について確認する。

本年度より、活動予算を申請・確保するには、NWIP の積極的な提案が必要となる。(別添)の規定要約票をもとに、ISC/TC46/SC9 のテーマについてご紹介いただく。SC9 の事業概要は、もともと、SC46/SC4 の図書館用 RFID の Unique Item Identifier (UII)として計画されたものを、より広い応用に向けたスコープを念頭に TC46/SC9 の識別子として提案合意したものである。SC11 としては、今後慎重に議論し、NWIP の提案について検討していく。

5-2) 平成 26 年 ISO/TC 投票報告と審議案件について

配布資料に記載されている「2013/12/9 以降 ISO/TC46 投票済案件と審議案件」について、保坂リーダのご説明のもと SC11 担当分を確認する。

ISO 23081-2:2009 (SR)

Revise/Amend としてコメントをつける。実例を記載すべきとのコメント。

ISO/CD 30302-ISO/TC 46/SC 11N1410 (CD)

Yes で回答。次のステップと状況は、議題 3)のワシントン総合報告に補足する。

ISO/CD 15489-1.5-ISO/TC 46/SC 11N1412 (CD)

コード表現「1.5」については要確認。(2部構成のため 1.5 の表現は正しくないと想定する。)

Yes で回答。

ISO/TC 46/SC 11N1448

Yes で回答。(新しいスコープに対する承認依頼についての回答)

以上、回答内容に関するコメントはなし。

5—3 TC46SC11 ワシントン総会報告

・保坂リーダより、資料に沿った要点の報告が行われた。今回は、TC46 委員会からの旅費措置により参加、SC11 は 40 名ほどの参加があり 5 月 5 日(月)から 9 日(金)、米国議会図書館、および米国アーカイブズ・記録管理局で行われた。

・主な内容として、

① 織体制の変更で ISO15489 記録管理の改定に合わせ ISO23081 記録管理のメタデータを改定するため WG1 のメタデータが活動を再開、WG9MSR-要求事項を解散させ、WG8MSR-基本及び用語に吸収し、名称を「記録管理マネジメントシステム」としたこと(30 日レター投票済み)、および WG11 記録管理システムのリスク評価が白書を出版したことで区切りを付け解散したこと、さらに JTC1/SC38 分散アプリケーションプラットフォーム及びサービス(DAPS)、ISOTC176/SC2 品質システム、及び知識マネジメントシステムに関する ISO/PCXXX(戦略的開発プロジェクト委員会で未開設)とのリエゾンを築いた。

② 昨年専門班を置いた、エンタープライズアーキテクチャ・サービス(EAS)、分散型の業務基盤とサービスにおける記録、SC11 に共通する考え方、オープンデータに関連する記録管理の 4 分野は、いずれも

2015年の北京総会に向けディスカッションペーパーを用意し、NWIPの開発につなげる、

③ISO30300 記録マネジメントシステム(MSR)関連では、30302MSR—実施ガイドライン-ワシントンの会議でも 34 コメントされ色々意見が出され時間がとられたが、WG 内での投票で収束を図り、DIS投票が7月末とされたほか、30303以降で想定されていた監視・測定/管理については、直接的なハイ発は延期し一度ブレーキをかけ、可能な選択肢を用意する、

④ISO15489 改定関連では、名称をISO15489-1 情報とドキュメンテーション—記録管理—第1部：概念と原則(以前は総則)に変更数とともに、他の部(2, 3ぶもあり)が様々な環境における実施ガイドを含むように開発することにした。決議は全て資料に翻訳して掲載したが、27頁の決議18は要注視。韓国提案の第三者レポートは、当初日本からも信頼できることが必須とコメントし、TRに換えられたが英国などのドラフト支援を受け再度ISへの変更が図られた。

5-4) その他

- ・議事録3頁の5-3、3点目:MSRシリーズは、他のMSSの運用に多大の影響を及ぼすことから、SCメンバーで作成した日本語版の用語法などを緻密に検討する必要がある。そのため、2月末までに各委員の現状の日本語版における表記の揺れや、他のMSSシリーズの用語法との整合などをチェックし、その結果を保坂リーダに集約することとする(保坂リーダからML上で各委員に周知する)は、保坂リーダの職務繁忙でフォローが遅れた件は、趣旨を再確認し7月末から、9月12日に期日を再設定し実施する。
- ・ISO15489-1の改定版は、最終版(DISが12月頃)で同様に翻訳を行う予定。

(以上)